

編集後記

一九六三年（昭和三十八年）

十一月に、本市総務局調査室において創刊した「調査季報」は、本号をもって遂に一〇〇号に達しました。

この一九八九年という年は、横浜市政一〇〇周年・横浜開港一三〇周年という本市にとって記念すべき年であり、また「昭和」から平成へと元号のかわった歴史的な年でもあります。歴史の偶然とはいえ、こうした時代の大きな節目に「調査季報」一〇〇号を刊行できたことは、編集担当者としてまことに感慨深いものがあります。

この間二十五年という長い歲月がありました。一地方公共団体の手になるものとはいえ、全国に先がけて都市問題の専門誌として今日まで継続できたことは、専門家・研究者・市民・市職員など多数の方々のおかげで、ご協力とご熱意の賜物によ

るもので、厚く感謝申しあげます。

「調査季報」を創刊した当時は、高度経済成長の真只中にあるときでした。しかし、大都市を中心にいわゆる都市問題が発生し、人々の関心が都市自治体の動向に目を向けはじめたときでもありました。こうした状況のもとで、横浜市は「将来の市政への正しい見通しとその上に立った近代的科学的市政への確立」が必要と考へ、「本市行政の基礎的な問題について、これを社会、経済、労働、文化等総合的な面から取り上げ、これに科学的な調査研究を加え」（発行にあたって、総務局長 創刊号）で、その成果を発表する場として「調査季報」を発行したのであります。

こうした趣旨でスタートした季刊誌ですので、当初は市役所外部の専門家・研究者による啓

蒙的な都市問題に関する論文が

主体でしたが、しだいにこれら外部の執筆者のほか、行政の担当者・実務家としての本市職員

の執筆が加わり、今日に至っております。毎回特集主義をと

り、時宜に適切なテーマを心がけてまいりました。一号から一〇〇号までの特集テーマと内容は、その時期時期における関心

課題であり、ある意味では横浜市政の歩んだ足跡といつてもよい

でしょう。構成は特集を中心

に、行政研究・資料紹介・新書紹介・市政日誌等があり、外部

の執筆者の方々からは、斬新な

ご意見や示唆に富む有益な助言

を多数いただき、市政の方向づけ、

推進にあたって、大変に参考にさせていただきました。また、

本市職員もこれに触発されて都市問題への関心と理解を一

段と深め、行政の紹介や提案など

要な場ともなっています。

執筆者、とくに本市職員については、

あらかじめ個人の立場で自由に意見を表明するようお

願い、公的立場の制約から離れて、

自由で新しい発想を期待して

います。そして読者とともに議論をさらに

深め、発展させて行き、

新しい都市政策への糸口にし

たいと考えております。

さて、第一〇〇号を迎えた「調査季報」は、

これまでの経験と蓄積を生かしなが

ら、今まさにスタートした「平成」の

新しい時代を、二十一世紀に向けて、

今後も横浜から行政内容を紹介し、

全国に向けて問題提起をしたいと考へて

おります。私どもは、「調査季報」が都市問題の専門誌として成功してきたと誇る

誌面づくりを、各局各区の編集委員のご協力を得ながら進めて行きたいと思っております。今後とも皆さんのご鞭撻をよろしくお願いいたします。

（都市科学研究室）

「調査季報」は職員が自由に意見を発表し討論する行政研究誌です。「行政研究」への投稿も歓迎します。二〇〇字詰五〇枚以内。都市科学研究室まで（電話六七一一二〇一九）。

この「読者のページ」へもご投稿ください。市政、都市問題、自治体問題等、題材は自由。一〇〇〇字以内。